

「健やか親子21」と関連施策の流れについて

1. 「健やか親子21」ができるまで

- 平成12年2月 児童家庭局長委嘱の「健やか親子21検討会」（座長：平山宗宏 母子愛育会日本子ども家庭総合研究所長）が発足。
21世紀の母子保健のビジョンを示すために、31名の委員にて9回検討会を行った。
- 平成12年11月「健やか親子21検討会報告書」が取りまとまった。

2. 「健やか親子21」の性格

- 21世紀の母子保健の主要な取り組みを提示するビジョンであり、かつ、関係者、関係機関・団体が一体となって推進する国民運動計画。
- 少子化対策および健康日本21の一翼を担うという意義を有する。
- 10年間（2001年～2010年）の計画で、5年後（2005年）に計画の見直し。

3. 基本的な視点

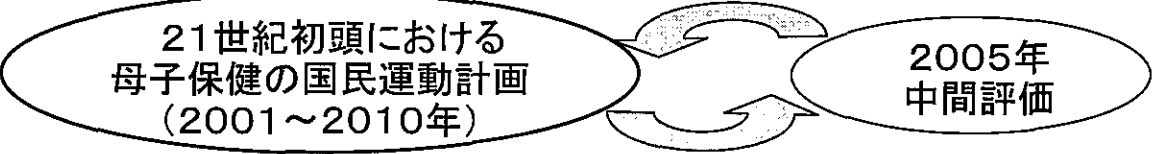
- 20世紀中に達成した母子保健の水準を低下させないために努力。
- 20世紀中に達成しきれなかった課題を早期に克服。
- 20世紀終盤に顕在化し、21世紀にさらに深刻化することが予想される新たな課題に対応。

4. 課題設定

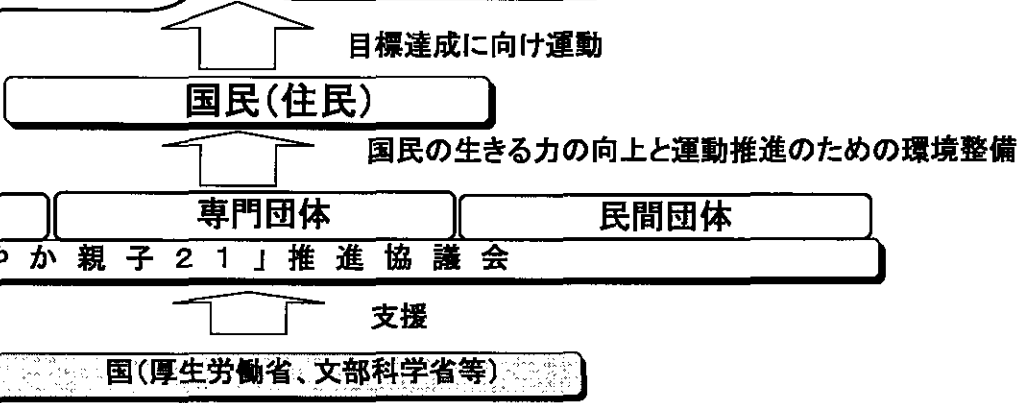
- 課題1 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進
- 課題2 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援
- 課題3 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備
- 課題4 子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減



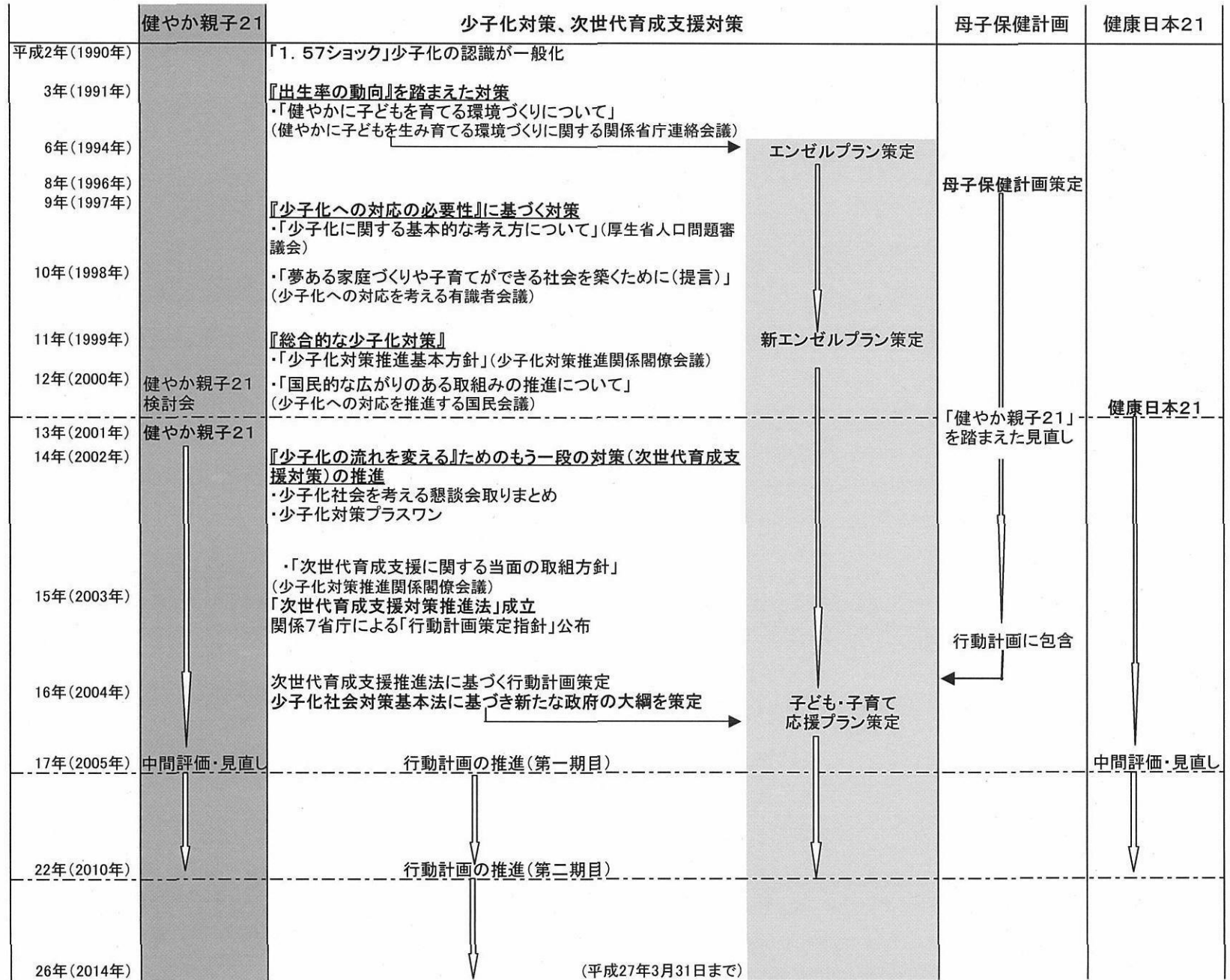
「健やか親子21」の推進について



課題	①思春期の保健対策の強化と健康教育の推進	②妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援	③小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備	④子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減
主な目標 (2010年)	<ul style="list-style-type: none"> ○十代の自殺率(減少) ○十代の人工妊娠中絶実施率(減少) ○十代の性感染症罹患率(減少) ○15歳の女性の思春期やせ症の発生頻度(減少) 	<ul style="list-style-type: none"> ○妊産婦死亡率(半減) ○産後うつ病の発生率(減少) ○周産期医療ネットワークの整備(47都道府県) 	<ul style="list-style-type: none"> ○全出生数中の低出生体重児の割合(減少) ○不慮の事故死亡率(半減) ○初期・二次・三次の小児救急医療体制が整備されている都道府県の割合(100%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○虐待による死亡数(減少) ○育児に参加する父親の割合(増加) ○出産後1か月時の母乳育児の割合(増加)
親	応援期	妊産婦期～産じょく期	育児期	育児期
子	思春期	胎児期～新生児期	新生児期～乳幼児期～小児期	新生児期～乳幼児期～小児期



「健やか親子21」と各種施策との関連



*「母子保健計画」は平成8年5月1日付け厚生省児童家庭局母子保健課長通知「母子保健計画の策定について」に基づき市町村が策定
平成13年8月2日付け厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課長通知「市町村における母子保健計画の見直しについて」に基づき「健やか親子21」を踏まえ見直し